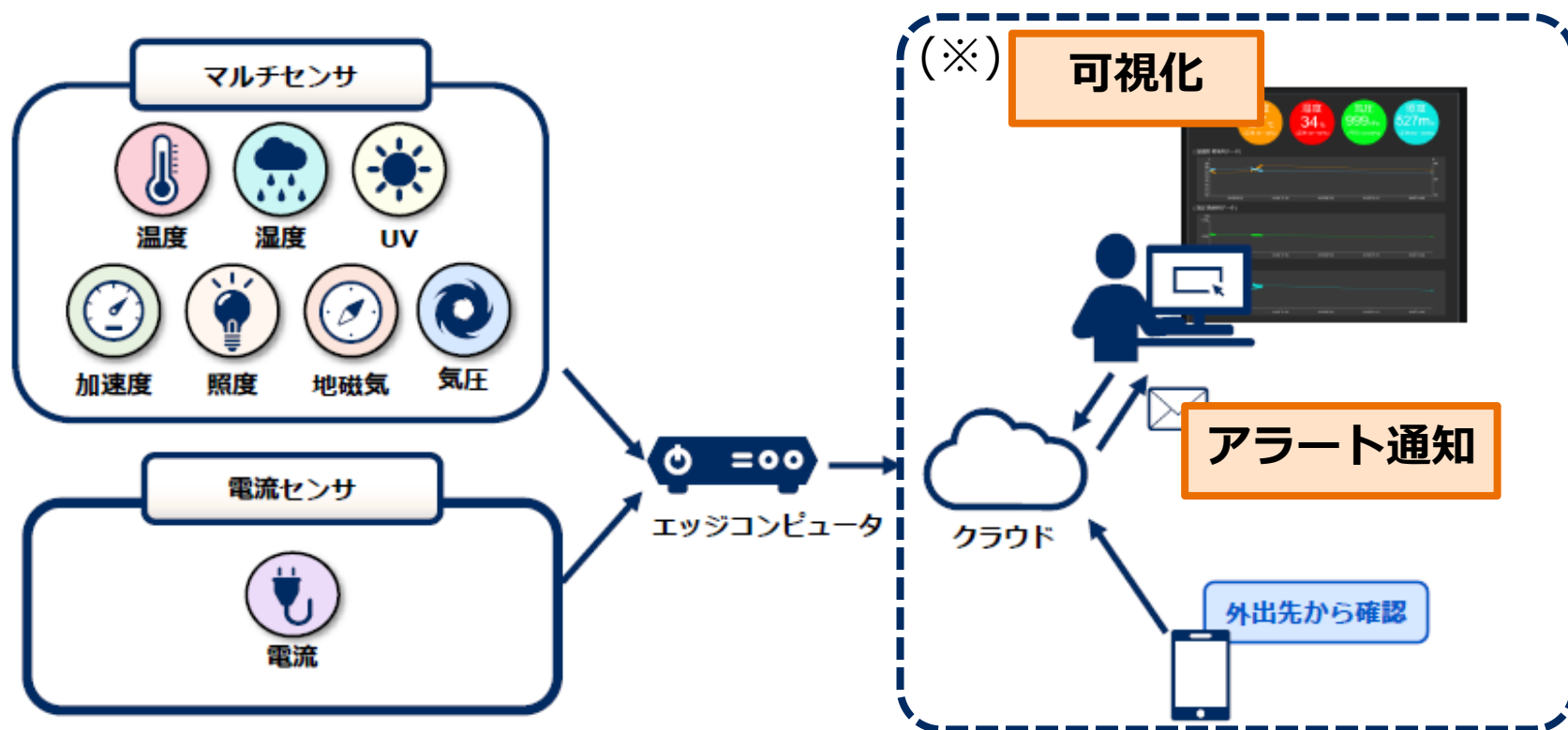


NEC IoT センサデータ可視化サービスの概要

8種類のセンサデータを組み合わせ、そのデータを可視化するサービス。

センサデータを、ネットワーク等の現場環境を変更する事なくクラウド上に自動収集し、1つのダッシュボード画面で可視化できる。同画面は、お客様自身でカスタマイズでき、気温、湿度、気圧、加速度、地磁気、照度、UV、電流のデータを取得可能。



※収集したデータの可視化は、株式会社インフォコーパスが提供するIoTプラットフォーム「SensorCorpus」を採用しています。

NEC IoT センサデータ可視化サービスの導入事例

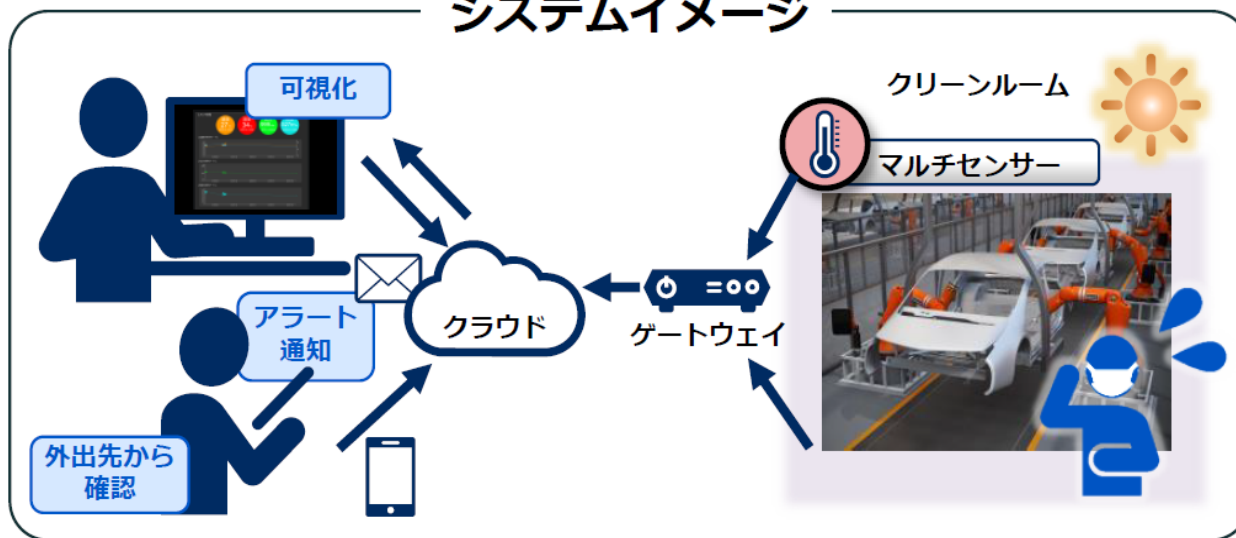
解決したい課題

- 高温・高湿度になりやすい作業環境のため、作業員の健康管理が課題だった。管理者が定期的に現場の温湿度を確認する事で安全の維持を図っていたが、手間がかかっていた。
- 上記の通り、管理者は作業だけでなく、作業環境の管理も行う必要があるため、複数人の管理者が必要な場合もあった。

導入の効果

- 作業環境の温度/湿度/照度/気圧データをマルチセンサで自動収集する事で、データの可視化と蓄積が可能になった。(収集したデータを作業環境管理に活用)
- 管理者が本来の業務に集中できる事で、人員の最適化ができた。

システムイメージ



国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC : Intergovernmental Panel on Climate Change）が示す「気候変動がもたらす8つのリスク」の内、本ソリューションによって軽減できるリスク。

（冒頭の番号は、「気候変動がもたらす8つのリスク」次ページの番号に対応）

④熱波による、特に都市部の脆弱な層における死亡や疾病のリスク

熱波により高温・高湿度になりやすい屋内環境としては、工場や体育館等が挙げられる。このような特定エリアでの温度変化は、一般的な気象観測データでは検出できない。

温度センサを取り付けて、温度・湿度等の作業管理に必要な現場情報を自動収集する事で、**高温・高湿度の環境が整う前に、メール通知によるアラートが可能になる**。アラートにより、現場の温湿度の調整、または水分補給等、状況に応じた適切な措置を促す事で、猛暑による健康被害や疾病のリスクを防止／軽減できる。

気候変動がもたらす8つのリスク

出典：IPCC第5次評価報告書(2014)



① 海面上昇、沿岸での高潮被害などによるリスク



② 大都市部への洪水による被害のリスク



③ 極端な気象現象によるインフラ等の機能停止のリスク



④ 熱波による、特に都市部の脆弱な層における死亡や疾病のリスク



⑤ 気温上昇、干ばつ等による食料安全保障が脅かされるリスク



⑥ 水資源不足と農業生産減少による農村部の生計及び所得損失のリスク



⑦ 沿岸海域における生計に重要な海洋生態系の損失リスク



⑧ 陸域及び内水生態系がもたらすサービスの損失リスク